

「重症者は全く悲惨」

厚相記
者会見

応急措置講ずる

園田厚生大臣は二十二日午後三時半から水俣市湯の児のリハビリテーションセンターで記者会見し、次のように語った。

一、おとなと子供の重症者を見たが、全く悲惨だ。全国の重度身障者を見て歩いたが、水俣病患者には一般の身障者にはない複雑さ

がある。特に胎児性患者の病状と治療は複雑だと感じた。

一、現在、熊本や久留米大で治療のためのいろんな研究が進められており期待している。と同時に、センターでの治療の様子を見て長い間愛情をかけて治療すれば、相当効果のあることもわかつた。

センターの職員の今日までの労苦に所轄大臣として心から感謝する。

一、水俣病の治療は今の健康保険制度では不十分な点が多く、特別措置を講ずる必要がある。しかし関係法ができるまで待つておれないので、厚生省の公害医療委託

研究費などから予算を支出して応急措置を講ずる。

一、わたしが東京に帰ったら間もなく正式に公害として認定する。その上で会社と国、県、市、地域住民とで力を合わせてそれぞれの責任の限界を明らかにしながら、患者の救済に当たりたい。